

中野成樹+フランケンズ 『半七半八(はんしちきどり)』

Shigeki Nakano + Frankens “Halfway to Hanshichi”

作・演出：中野成樹
ドラマトウルク：長島 穂
原案：岡本綺堂『半七捕物帳』より

Written and Directed by Shigeki Nakano
Dramaturge: Kaku Nagashima
Based on “The Curious Casebook of Inspector Hanshichi” by Kido Okamoto

10.6 Fri - 10.9 Mon
FANCLUB (受付)、PARADISE AIR、
松戸観光案内所 (FEEL MATSUDO)、葛西屋呉服店、
古民家スタジオ旧・原田米店、江戸川河川敷

あの親分と歩く、江戸でも東京でもない町・松戸

この『半七半八(はんしちきどり)』は、全体を通し、時間を遡っていく構成をとっています。1999年の金曜日からはじまり、1991年の夕暮前に終わります。ですので、登場人物たちは、場面を追うごとに若返り、様々な理由はありますが不意に消えてゆきます。あるいは、不意に実在したりもする。このお話は、きらめきについての物語でもあります。いま思えばあの頃が一番輝いていた。いま思えばあれが最後だった。こうしておけばよかった、ああしておけばよかった。そんな思いは世にあふれています。あの時はまだ○○が一緒にいたんだよね。なつかしいなあ。過去を振り返ることはかなわぬ夢をみることで。未来を夢見ることとまるで違う、同じ夢だけど。それでも私たちは、過去を夢見ることをやめようとはしません、

異なる、いわゆる「翻訳劇」をとりあげ、「いまの自分たちの価値観と身体」で理解し体現する。大胆なアレンジに広獲へいただくが、原作ファン、および伝統に与する演劇ファンからのお叱りも多い。2010年より外の刺激+フランケンズ(通称:ソトフラ)名義で、劇場外にて応用演劇活動も展開中。



Photo: Yusuke Abica

することは不可能ですし、この物語において、時間は過去へしか向かいませんので、犯人を裁くこともできません。そこで私は思うのです。いま、過去に向かおうとする我々は意味のないことをしているのだろうか? 今に活かすことのできない行いは意味のないものなのだろうか? と。今、ここ、と切り離された、未来の、そこ、と切り離された、それでも大切な何かに触ってみたい。私はそれを頼って生きている気がします。

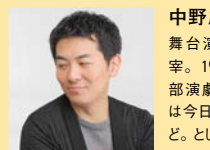
中野成樹

主催：PARADISE AIR、フェスティバルトーカー
協力：株式会社浜友商事、株式会社まちづくりエイト
文化庁平成29年度文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業 (PARADISE AIR事業)
松戸市文化の香りのする街構築事業 (PARADISE AIR事業)



中野成樹+フランケンズ

2003年結成。通称ナカフラ。時代・文化風習等が現代日本と大きく異なる、いわゆる「翻訳劇」をとりあげ、「いまの自分たちの価値観と身体」で理解し体現する。大胆なアレンジに広獲へいただくが、原作ファン、および伝統に与する演劇ファンからのお叱りも多い。2010年より外の刺激+フランケンズ(通称:ソトフラ)名義で、劇場外にて応用演劇活動も展開中。



中野成樹
舞台演出家、中野成樹+フランケンズ主宰。1973年東京生まれ。日本大学芸術学部演劇学科専任講師。近作に『えんげき』は今日もドラマをライブするvol.1』(2016)など。としまアート夏まつり「おぼけ教室」(13-16)、文化庁「日中韓文化芸術教育フォーラム」WS講師(14)など。近年は教育、地域活動にも視野を広げています。FITへの参加は「四谷雑談集」+「四家の怪談」(13)がある。

Table with 2 columns: Role and Name. Includes Executive Committee members like 野村 真, 福原義春, and various advisors and staff.

Table with 2 columns: Role and Name. Includes technical staff like 技術監督 廣川英司, 技術監督アシスタント 河野千鶴, and production coordinators.

Table with 2 columns: Role and Name. Includes art direction (Art Direction: 氏家啓雄), costumes (衣装: 竹下雅哉), and other production roles.

Table with 2 columns: Role and Name. Includes main cast members like 石川 慎, 井上 達, and other performers.

Table with 2 columns: Role and Name. Includes organizers, sponsors, and supporters of the festival.

フェスティバルトーカー17は東京芸術祭2017の一環として開催されます。



まちなか パフォーマンズシリーズ F/T in the City Performance Series

2017.
10.6 Fri - 11.12 Sun



中野成樹+フランケンズ 『半七半八(はんしちきどり)』

作・演出：中野成樹
ドラマトウルク：長島 穂
原案：岡本綺堂『半七捕物帳』より
出演：竹田英司、田中佑弥、鈴鹿遥穂、福田 毅、洪 雄大、小泉まき、斎藤淳子、北川 麗、佐々木 愛、道廣オリヴィエー真、新藤みなみ、小口舞替 / ススキシロー (A.C.O.A)
照明：高橋英哉
音響コーディネーター：庄子渉 (PARADISE AIR)
音響補佐：有岡 珍
衣裳：横 麻理
舞台監督：佐藤 恵
舞台監督助手：高島早紀
記録写真：松本和幸
記録映像：須藤崇規
宣伝美術：植田 正
移動アテンド：星 菜里、宮武亜季 (PARADISE AIR)
地図製作：堀切梨奈子、中村 直
制作：東 彩織、水湖歩心、松宮俊文 (フェスティバルトーカー)
制作アシスタント：柿木初美
インターン：岩井美菜子、野口明日香、橋本 葵、横見咲季
フロント運営：岩間麻衣子
主催：PARADISE AIR、フェスティバルトーカー
協力：株式会社浜友商事、株式会社まちづくりエイト
文化庁平成29年度文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業 (PARADISE AIR事業)
松戸市文化の香りのする街構築事業 (PARADISE AIR事業)

『アドベンチャー BINGO!!』

作・演出・出演：福田 毅
記録写真：松本和幸
記録映像：富田了平
おみやげデザイン・宣伝美術：植田 正
制作：加藤弓奈 (急な坂スタジオ)、松宮俊文、寛川真由子 (フェスティバルトーカー)
協力：株式会社浜友商事、株式会社まちづくりエイト
インターン：岩井美菜子、野口明日香、橋本 葵、横見咲季
制作協力：急な坂スタジオ
主催：フェスティバルトーカー

『アイ・アム・ノット・フェミニスト!』

作・演出・出演：遠藤麻衣
出演：村山悟郎
ドラマトウルク：櫻井美穂
映像/記録写真・映像：藤川琢史、宮澤 響
振付 (MV)：Aokid
ヘアスタイリング (MV)：山本佳代 (dolls)
衣裳 (MV)、衣裳コーディネーター (結婚式)：RYOTAMURAKAMI
ステージディレクター：平松隼人、横山キミ (NEWSEE)
宣伝美術：植田 正
制作：寛川真由子、松宮俊文 (フェスティバルトーカー)
インターン：岩井美菜子、野口明日香、橋本 葵、横見咲季
特別協力：ゲーティンステイトウ 東京ドイツ文化センター、南長崎スポーツセンター
主催：フェスティバルトーカー

『ファミリー・リゲインド：ザ・ピクニック』

構成・演出・出演：森 栄喜
出演：緒貴大介、桐田 薫
衣裳：MOTO GUD
映像：高橋明大
映像テクニカル：松澤延祐
宣伝美術：植田 正
制作：松宮俊文、寛川真由子 (フェスティバルトーカー)
インターン：岩井美菜子、野口明日香、橋本 葵、横見咲季
主催：フェスティバルトーカー

快快『GORILLA〜人間とは何か?〜』

演出：北川陽子
出演：山崎結司
舞台美術：佐々木文美
音楽：久下恵生
音響：内田直之
舞台監督：佐藤 恵
記録写真・映像：加藤和也
宣伝美術：植田 正
制作：快快、松宮俊文、寛川真由子 (フェスティバルトーカー)
インターン：岩井美菜子、野口明日香、橋本 葵、横見咲季
主催：フェスティバルトーカー

Shigeki Nakano + Frankens “Halfway to Hanshichi”

Written and Directed by Shigeki Nakano
Dramaturge: Kaku Nagashima
Based on “The Curious Casebook of Inspector Hanshichi” by Kido Okamoto
Performers: Eiji Takeda, Yuya Tanaka, Michiyoshi Suzuki, Takeshi Fukuda, Takehiro Go, Maiko Koguchi, Junko Saito, Rei Kitagawa, Ai Sasaki, Olivier Kazuma Michihiro, Minami Shindo, Maika Kozumi, Shiro Suzuki (A.C.O.A)
Lighting: Hideo Takahashi
Sound Coordination: Wataru Shoji (PARADISE AIR)
Sound Assistant: Rei Arioka
Costumes: Mari Tachibana
Stage Manager: Megumi Sato
Assistant Stage Manager: Saki Takashima
Photography: Kazuyuki Matsumoto
Video Documentation: Takaki Sudo
Flyer Design: Tadashi Ueda
Audience Movement Supervisor: Mari Hoshi, Aki Miyatake (PARADISE AIR)
Map: Rinako Horiri, Nao Nakamura
Production Coordinators: Saori Azuma, Ayuchi Mizubuchi, Toshifumi Matsumiya (Festival/Tokyo)
Production Assistant: Hatsumi Kakinoki
Interns: Minako Iwai, Asuka Noguchi, Aoi Hashimoto, Saki Yokomi
Front of House: Maiko Iwama
Presented by PARADISE AIR, Festival/Tokyo
In cooperation with Hamatomo Corporation, Machizu Creative Co., Ltd., Supported by the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in the fiscal 2017
Supported by the Matsudo City Community Culture Project

『Adventure Bingo!!』

Written, Directed and Performed by Takeshi Fukuda
Photography: Kazuyuki Matsumoto
Video Documentation: Ryohji Tomita
Souvenir and Publicity Design: Tadashi Ueda
Production Coordinators: Yumina Kato (Steep Slope Studio), Toshifumi Matsumiya, Mayuko Arakawa (Festival/Tokyo)
Interns: Minako Iwai, Asuka Noguchi, Aoi Hashimoto, Saki Yokomi
Production Support: Steep Slope Studio
Presented by Festival/Tokyo

『I Am Not a Feminist!』

Written, Directed and Performed by Mai Endo
Performer: Goro Murayama
Dramaturge: Miho Sakurai
Video, Photography, Video Documentation: Takashi Fujikawa, Hibiki Miyazawa
Choreographer (Music Video): Aokid
Hair Styling (Music Video): Kayo Yamamoto (dolls)
Costume Design (Music Video), Costume Coordinator (Wedding): RYOTAMURAKAMI
Stage Directors: Hayato Hiramatsu, Kimi Yokoyama (NEWSEE)
Flyer Design: Tadashi Ueda
Production Coordinators: Mayuko Arakawa, Toshifumi Matsumiya (Festival/Tokyo)
Interns: Minako Iwai, Asuka Noguchi, Aoi Hashimoto, Saki Yokomi
Front of House: Mai Takizawa
Special cooperation from Goethe-Institut Tokyo, Minami-Nagasaki Sports Center
Presented by Festival/Tokyo

『Family Regained: The Picnic』

Conceived, Directed and Performed by Eiki Mori
Performers: Daisuke Watanuki, Kaoru Kirita
Stage Design: Ayumi Sasaki
Music: Yoshio Kuge
Sound: Naoyuki Uchida
Stage Manager: Megumi Sato
Photography, Video Documentation: Kazuya Kato
Flyer Design: Tadashi Ueda
Production Coordinators: Toshifumi Matsumiya, Mayuko Arakawa (Festival/Tokyo)
Interns: Minako Iwai, Asuka Noguchi, Aoi Hashimoto, Saki Yokomi
Presented by Festival/Tokyo

FAIFAI “Gorilla: What is Human?”

Directed by Yoko Kitagawa
Performer: Koji Yamazaki
Stage Design: Ayumi Sasaki
Music: Yoshio Kuge
Sound: Naoyuki Uchida
Stage Manager: Megumi Sato
Photography, Video Documentation: Kazuya Kato
Flyer Design: Tadashi Ueda
Production Coordinators: FAIFAI, Toshifumi Matsumiya, Mayuko Arakawa (Festival/Tokyo)
Interns: Minako Iwai, Asuka Noguchi, Aoi Hashimoto, Saki Yokomi
Presented by Festival/Tokyo

FT Festival/Tokyo



『アドベンチャー BINGO!!』 “Adventure Bingo!!”

作・演出・出演：福田 毅

Written, Directed and Performed by
Takeshi Fukuda

10.14 Sat, 10.15 Sun
東京芸術劇場 アトリエウエスト

10.27 Fri - 10.29 Sun
11.9 Thu - 11.11 Sat
あうるすぽっと ホワイエ



タテ、ヨコ、ナナメ。 バラバラの「お話」が そろったら——?

「アドベンチャー BINGO!!」は、ビンゴカードに記された数字の選択の仕方によって、毎回異なる側面が表れる作品です。

ひのきょう 畢竟、稽古では何度も繰り返し「ひとりビンゴ大会」をやることになる。

これが、虚しい。
タテ・ヨコ・ナナメと数字が揃って「ビンゴ!」と叫んでも、ひとり。

「あーあと1個でビンゴだったのに!」と悔しんでも、ひとり。

そう、今回ほど、お客さん・誰かがいるって大事ななあと痛感するクリエーションはないのですが、

じゃあ、お客さん・誰かって、何だろう。

お客さん・誰かとのコミュニケーションって、何だろう。

お客さん・誰かと、コミュニケーションの、冒険が、ハッピー

にビンゴ届るといいなあ。

ピース。

福田 毅



「ビンゴその前に」(2017) Photo: Eiji Takeda



F/T16 「ふくちゃんねる」 ©Kazuyuki Matsumoto

福田 毅
俳優。中野成樹＋フランケンス所属。劇団公演のほか、『From the Sea』(F/T14)など、客演も多数。2009年よりソロ・パフォーマンスを開始、近作にTwitterに書きとめた寓話を構成した『鷹』、同作の改訂版『かも』(共に2015)、『ふくちゃんねる』(F/T16)など。



© Takaki Sudo

『アイ・アム・ノット・フェミニスト!』 “I Am Not a Feminist!”

作・演出・出演：遠藤麻衣

Written, Directed and Performed by
Mai Endo

10.26 Thu - 10.29 Sun
ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター



「結婚」を滞在制作し、演じる。 アパートの一室から見る 制度、社会

今年はファッションで取り入れられたりと、フェミニストが流行した年だと感じています。多くの人にフェミニズムが認知されることは、キャンペーンとして成功したと言えるでしょう。しかし表層的な消費の加速は、フェミニズムが内包している私的なゆがみや感性を置き去りにしてはいませんか。普遍性の獲得と個別的な感性の間で葛藤する存在として、フェミニストの活動は位置していると、私は考えます。

結婚は、社会一般の法制度でありつつ私個人の生活でもあります。本作は、普遍的価値と私的な感性の間に位置するものとして、この結婚にフォーカスをあてています。そのため、親族や知人友人だけでなく、広く一般にもけた作品として発表することとしました。私／公の切り分けを行わず、ないまぜな状態で結婚式を描きます。

婚姻届を出すとき、私はあたり前のように夫の苗字に変更しました。日本の法律では夫婦同姓を定めてはいますが、どちらの苗字にすべきかまでは決めていません。にも関わらず、私たち夫婦は、妻よりも夫が苗字を変えることの方が腰が重い作業のように感じていました。よくよく考えてみると、じゃんけんやくじで決めてもいいし、二人で新しい苗字を作ることを試みたってよかったのかもしれない。

それに、恋愛を基盤にしたモノガミーな結婚観はどうでしょうか。近年の過熱する不倫報道からは、日本の婚姻

制度のタテマエとホンネが見え隠れします。夫婦間におけるセクシャリティの拘束については、新たな価値観が必要だと考えます。

漠然と当たり前だと思っていることをちょっと見直せば、これまでより息をしやすくなる。そう考えて、今回自分たちの婚姻関係を見直すことにしました。


この試みは、男女が対等になることを目指すだけではありません。対等でなく、ニーズが異なった状態でもなお、互いを尊重し、その上で一緒にいることができる方法を模索することです。

遠藤麻衣

特別協力：ゲーテ・インスティトゥート 東京ドイツ文化センター、南長崎スポーツセンター



遠藤麻衣
俳優、美術家、「二十二世」主宰。1984年兵庫県生まれ、東京在住。現在、東京藝術大学美術研究科博士後期課程に在籍。「演じる」というテーマを軸に、美術や演劇など領域横断的な活動を展開している。主な展覧会に「MOTアニュアル2016 キンセイノセイキ」(2016)、「ボクは神の子を妊娠した。」(15)、「アイ・アム・フェミニスト!」(15)。また、主な出演にsons wo:「シティIII」(17)、二十二世「へんなうごきサイファー」(14-)、岡崎藝術座「イスライスライスラ!」(16)、岸井大輔「始末をかく」(13-18)、西尾佳織「透明な隣人 ～0-エイト-によせて～」(F/T14)などがある。



ファミリー・リゲインド：ザ・ピクニック 『Family Regained: The Picnic』

構成・演出・出演：森 栄喜

Conceived, Directed and Performed by
Eiki Mori

トーク「共振する家族」11.3 Fri
あうるすぽっと 会議室B

映像上映 11.4 Sat - 11.12 Sun
池袋西口公園
豊島区庁舎 1階総合案内横



© Eiki Mori Courtesy of KEN NAKAHASHI

同性カップル＋子供。 まち行く人々が切り取る 「家族」の肖像

小さい頃、毎週末のように家族で近所のジャスコに行くのが楽しみでしかなかった。父は工具、母は洋服、姉と僕はおもちゃコーナーで思い思いの時間を過ごす。まだ携帯がない時代、おもちゃを見るのに飽きて、父や母をだっ広い店内で探しに行くのもちょっとした冒険みたく楽しかった。時間になると待ち合わせ場所に集まって、みんなでソフトクリームを頬張った。毎週末の家族との特別な「ピクニック」のような、とても大切な思い出だ。

大人になり、僕なりの「ピクニック」をみんなで一緒に楽しみたいと思った。僕ともうひとりの男性と男の子が、日曜日、ちょっとよそ行きのかわいい服(でも全身真っ赤っか)を着て街へ繰り出す。そこで偶然出会った人々にカメラを渡して、僕たちのことを撮影してもらおう。風景(社会)に全く溶け込めていない、真っ赤な服装をした同性同士と子どもという異なる存在の3人が、赤く現像された写真の中でだけは、まるで普通の家族のように街の風景に溶け込んでいる……。たとえ写真の「赤い世界」の中だけでも、他者を通して家族として肯定されていく過程を映像として記録していくことで、僕たちの意識や社会の環境をこれからどう変革するべきなのか、僕自身、そして皆さんとともに、家族の未来像を思い描きながら考えるきっかけになればと思っています。

森 栄喜



森 栄喜
写真家。1976年石川県生まれ。2014年『intimacy』で、第39回木村伊兵衛写真賞を受賞。『Crows and Pearls』(2009)、『Tokyo boy alone』(2011)などの作品集のほか、同性婚をテーマにしたパフォーマンス『Wedding Politics』(2013～2016)がある。新作『Family Regained』(ナナロク社)が今秋刊行予定。

快快 『GORILLA ～人間とは何か～』

FAIFAI
“Gorilla: What is Human?”

演出：北川陽子
Directed by Yoko Kitagawa

11.12 Sun
池袋西口公園

都会のジャングルに生きるゴリラ ／人間の息吹を感じよ!

池袋西口公園に突如現れる一匹のゴリラ。音楽家によってリズムが奏でられ、ゴリラ役の俳優はからだを揺さぶる。俳優はその肉体の限界まで、何に縛られる事なく踊る。約40分後、通りすがりの観客たちは演じる事が出来なくなった俳優の姿を目撃する。都市を舞台に私たちは、漠然とした不安を抱えつつ、私という役を演じながら生きている。人間とは何か。地球に生きるものの一員として、ヒトとは何かを考える。

北川陽子

快快 (FAIFAI)
2008年結成。複雑な現実、メディア状況に多様かつポップな手法をもって挑む創作集団。10年代表作『My name is I LOVE YOU』が、チューリヒ・シアター・スベクタールにて、アジア人初の最優秀賞を受賞。ホテルのスイートルームで上演した近作『CATFISH』(17)も話題を呼んだ。




Photo: Kazuya Kato



『GORILLA's Speech』(2017) 提供：東京芸術祭2017